



風車 (かざぐるま)



～万葉テラスだより～

平成31年4月 第25号

桜の便りに心はずませる季節になりました。皆様いかがお過ごしですか。3月に万葉テラスで行ったイベントの紹介と、作業療法士による車椅子と適合についてを掲載しております。ご参考にしていただければ幸いです。

～イベント紹介～

4F 入所フロア



3月15日(金)に誕生日会を行いました。昔話『花咲か爺さん』をアレンジして『花咲か姉さん』を行いました。女装した男性スタッフが“花の女神”として登場し、「枯れ木に花を咲かせましょう」との掛け声とともに細かく切って用意しました。画用紙の花びらを模造紙に描いた枯れ木に、パラパラと振りまいて頂きました。その次に利用者様は、紙で作成したピンクの花を次々に木に貼り付けて頂き、満開の桜の木を完成させました。

“花の女神”が登場の際には、普段見せない職員の姿に大爆笑と拍手喝采が沸き起こり、とても楽しそうに過ごされていました。一役を終えた女装した職員からは、女装が気持ち悪くて、利用者様が「夜寝なかったらどうしよう?」、「悪夢を見ないか心配だ」と心配していました(笑)。

通所リハビリテーション

3月7日(木)に桜餅のおやつ作りを開催いたしました。3つのテーブルに分かれて、クッキングスタート! まずはじめは、あんこは俵型に丸めます。次にボールに入れた白玉粉に水を少しずつ加え、手でダマを潰します。ダマがなくなったら残りの水を少しずつ加え、泡だて器で混ぜます。砂糖、薄力粉、食紅を加えさらに混ぜます。ホットプレートを熱し、サラダ油を敷いたらスプーンで生地を薄く伸ばして焼きます。出来た生地に丸めたあんこを包み、南天の葉をお皿に敷き桜の塩漬けを乗せて出来上がり。どのテーブルも全員が参加して下さり、生き活きた顔をされていました。立ち上がって混ぜたり焼いたり積極的に取り組まれていました。テーブルによっては食紅を多く入れたようで桜色ではなく真っ赤になっている所もありましたが「この色がいいんですわ～」と笑いながら言っていました。どこのテーブルも、とっても美味しく出来上がり「おいしいわ」「まだまだ食べられるわ」など大変好評でした。次回のおやつ作りもお楽しみにして下さいね。



車椅子と適合(身体寸法と車椅子の基本寸法)について

車椅子を選択するにあたっては、使用者の身体能力や身体寸法に合わせた車椅子の基本寸法を決定し、構成部品を選択する必要があります。ではどのように決定していくのか。6つのポイントが重要です。

1. 座幅の決定:おしりの幅+4~5cm

幅が広すぎると側方に倒れやすくなり側湾の原因になったり車椅子を駆動しにくくなったりします。また、幅が狭すぎると姿勢をなおすスペースがなくなります。



2. シートの奥行き:おしりから膝のうらまでの長さ-3~5cm

長すぎると膝の裏を圧迫してしまうのでおしりをずらしてしまいます。また短すぎると、足の一部をささえられなくなります。

3. 背もたれの高さ:座面から肩甲骨(左右の三角形の骨)の下側

高すぎると手で車椅子を駆動するときにじゃまになります。低すぎると楽に座れなくなります。

4. レッグサポート長:足のせ台に足を乗せた状態で膝の裏が浮かない逆に膝の裏にシートがくい込まない長さ

長すぎると足が落ちてしまい、足の支えがなくなり太もものうらに圧がかかります。短すぎると、おしりに圧がかかり不快感が生じてしまいます。



5. シートの高さ:足を使って駆動する場合には、足が十分に床に付く高さ

高すぎると足で駆動しにくく、おしりを前にずらしてしまいます。低すぎると足のせ台(フットサポート)が床についてしまいます。

6. 肘のせの高さ:肘を90°程度曲げた時の高さ

高すぎたり低すぎたりすると休憩時に肩が持ち上げられたり落ち込んだりして、よい姿勢が保てません。

以上6つのポイントに絞ってお話させていただきましたが、寸法が合っているだけでは良好な車椅子を提供することができません。身体状況・日常生活などへの配慮も必要だと思います。

リハビリ室 主任 松野 理
(作業療法士・福祉用具プランナー)



〒634-0832 奈良県橿原市五井町 247

介護老人保健施設 万葉テラス

Tel : 0744-26-2288 Fax : 0744-26-2277

入所 100 床 (全床認知症専門棟) 通所リハビリテーション 40 名

